

組織目標評価報告書（令和2年度）

35

部局名： グローバル・ディスカバリー・プログラム

部局長名： 中谷 文美

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
1. 国内外の高校等に対するリクルート活動の継続やウェブサイトの充実を通じて、優秀な志願者の確保に努める。 2. 新たに導入する2021年度国内入試について、各学部や関係部署と連携し、着実に実施する。 3. 2020年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、各種オリエンテーション・履修指導を着実に進行。 4. 国際入試を経て渡日する入学者に対して、関係部署と連携し、渡日前後の手続きについて十分なサポートを提供する。 5. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、ディレクター、担任及びアカデミック・アドバイザーを中心に、適切なアドバイジングやサポートを行う。マッチング・トラックに進んだ学生については、各学部助言教員、卒業研究指導教員及びマッチング・アドバイザーで連携し、適切に行う。 6. 学年進行に伴い、開講科目の充実を図るなど、カリキュラムの円滑な実施に努める。卒業研究の評価方法や発表会の実施に向けた検討を行う。 7. インターンシップ、留学中のサポートを行うとともに、さらなる派遣先の開拓に向けて、学生の受入が可能な企業や大学等の確保を引き続き行う。また、卒業後のキャリア支援に向けて、関係部署と連携し、サポートを行う。	24-2 50-2	
1. 広報・学生リクルート活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの活動が中心となったものの、GDP独自の入試説明会やオープンキャンパスに関連して、新たに設置したワーキンググループで広報内容の検討を行い、全学一律で準備したWEBオープンキャンパス用動画とは別に、特設ページを公式ウェブサイト内に設けた。そこに教員自ら作成した説明動画や国内生5名、海外生10名の学生が自らの学修経験を語る動画、教員へのインタビュー動画を多数提供することで、従来とは異なる訴求方法を工夫した。また、国内外からの多様な問い合わせに丁寧な対応を行い、個別の要請にも応えた。オンライン化された海外での留学フェアについては、アメリカやフィリピン、中国、ミャンマー、東南アジアやアフリカ地域のオンラインフェアに教職員が手分けして参加し、上記の広報素材を活用したほか、出身国の留学生にも参加してもらうことで、学生目線でのプログラム紹介を行うなど多様な広報活動を展開した。その結果、国内入試は44人(出願倍率1.6倍)、国際入試の4月入学は8人(出願倍率2.7倍)、10月入学は79人(出願倍率2.6倍)の出願があり、英語能力の高い出願者が多く、留学経験者や帰国子女、国際バカロレア校出身者など多様な出願者が集まった。 2. 新たに文系・理系に分けた入試を実施するため広報活動や具体的な選抜方法の検討など準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、高大接続・学生支援センター アドミッション部門や入試課と相談の上、受験生への影響も考慮して、急遽入学者選抜方法の見直しを行うと共に、追試験を含む日程の再設定を行った。一部の科目を実施しないこととし、日程も2日間の試験を1日で終了できるように見直しを図った。試験については、各学部や基礎教育センターの協力を得て、円滑に実施することができた。今回の入試改革の効果として、英語資格・検定試験の活用により従来以上に英語力の高い志願者が集まった。 3. 2020年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、教務委員会及び学生支援委員会、事務室を中心に、各種オリエンテーションを開催するとともに、学生一人ひとりに配置したアカデミック・アドバイザーによる丁寧な履修指導を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、来学・渡日できない学生がおり、オンライン中心の実施になったが、着実に進捗することができた。担任が週1回のオンラインホームルームを行ったり、アカデミック・アドバイザーやディレクターがそれぞれオンライン交流会を開催したりするなど、新入生へのケアも念頭に置いて交流とピアサポートの機会を多角的に用意した。 4. 国際入試を経て入学する2020年10月入学者に対しては、国際部と連携の上、留学ビザの取得、宿舍への入居、学生チューターの配置など受け入れ準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりほとんどの新入生が10月時点で渡日できなかった。その後10月以降に渡日できるようになった学生から順次留学ビザ取得に向けた誓約書作成などの事務手続きや入学後の健康調査など受け入れを行い、来岡後も市役所や郵便局等での手続きや大学構内・周辺の案内など日本での生活を開始するためのサポートを提供した。また、来日後必要となる日本語力向上のために、アカデミック日本語担当教員が急速日本語クラスを2科目新設し、オンラインで日本語指導を続けるとともに、渡日手続きに関して不安を軽減するべくケアを行った。 5. 在学生の学習・生活支援に関して、ディレクター、担任、アカデミック・アドバイザー、授業担当教員で連携したモニタリングを実施した。学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生向けには、マッチングアドバイザーを中心に、各学部助言教員や受入教員と連携しマッチング・履修指導を行い、学部での学習をサポートした。また上記の通り、新型コロナウイルスの関係で来学・渡日できない新入生向けには、担任が週1回のオンラインホームルームを行ったり、ディレクター主催のオンライン交流会を開催したりするなど、新入生へのケアも含めて交流を図った。 6. 学年進行に伴い開講授業科目を増加させ、教育を着実に実施した。授業開講形態については、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、オンライン授業を基本としつつ、渡航制限や交通機関利用への不安等の事情により来学・渡日できない学生に配慮しながら一部の科目について対面とオンラインを混ぜた形式での授業を実施した。卒業研究に関しては、履修の手引の作成など概要等を決定し説明会を開催した。教員FDにより、指導方法や達成目標についての意見交換を行った。学生は10月から卒業研究を開始した。 7. 実践的な学びについて、新型コロナウイルスの関係で新規に海外留学やインターンシップなどに学生派遣できなかったが、これまでどおり実験・実習科目やフィールドワーク、課題実践を開講したほか、創造的な動画制作などを学ぶための特別科目を新規に開講した。学生自身が大学内外での学びや文化的体験、社会批評などをエッセイの形でまとめたPolyphonyを刊行し、教員もその実施にアドバイザーとして関与したほか、特別開講した上記科目の履修学生の映像作品を公開に向けて準備した。また、キャリア支援として、キャリア・学生支援室と密接に連携し、就職情報の提供や就職相談会の活用等を行ったほか、個別学生のニーズ把握とサポートに努めた。		
②研究領域		研究領域の目標の達成状況
※研究領域に関する目標についてご記入ください。		
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
※社会貢献(診療を含む)領域に関する目標についてご記入ください。		
④管理運営領域		管理運営領域の目標の達成状況
※管理運営領域に関する目標についてご記入ください。		
⑤センター・機構等業務		管理運営領域の目標の達成状況
※センター・機構等の業務に関する目標についてご記入ください。		